

加齢黄斑変性

奈良県立医科大学眼科 緒方奈保子

KEY WORDS

- 脈絡膜新生血管
- ポリープ状脈絡膜血管腫
- 抗VEGF治療
- Pachychoroid

はじめに

加齢黄斑変性(age-related macular degeneration : AMD)は、網膜の中心で視力を司る最も重要な部位である黄斑が障害される疾患である。欧米では中途失明の主要原因であり、わが国でも高齢人口の増加とともに近年患者数は急増している。視覚障害による身体障害者手帳の新規交付の第4位で、高齢者の重篤な視力障害の主要な原因疾患の1つである。超高齢社会に突入するわが国において高齢者のQOL維持向上のため、AMDの治療や予防は大きな課題といえる。

I. 病態と分類

AMDは、黄斑部の網膜色素上皮、ブルッフ膜、脈絡毛細管板の加齢性変化を基盤に起こる前駆病変を経て発症し、萎縮型と滲出型の2種類がある(表)¹⁾。前駆病変には、黄斑部のドルーゼンと

網膜色素上皮異常がある。網膜の最外層にある網膜色素上皮は、視細胞の老廃物を処理する機能があるが、加齢や酸化ストレスなどにより機能障害が生じると、老廃物が網膜下にドルーゼンとして蓄積する。ドルーゼンは炎症を引き起こし、血管内皮増殖因子(vascular endothelial growth factor : VEGF)が誘導され、脈絡膜新生血管(choroidal neovascularization : CNV)の出現の基盤になる。

萎縮型はCNVを生じないが、黄斑部の網膜と脈絡膜が徐々に萎縮変性していくタイプで進行は緩徐である。滲出型はCNVから滲出物や血液成分が漏出し、黄斑部の網膜が障害される。わが国では滲出型AMDが多く、活動性のあるCNVは網膜の不可逆性の機能障害を引き起こし、視力低下を招く。滲出型AMDの病型は典型AMDと特殊型としてポリープ状脈絡膜血管症(polypoidal choroidal vasculopathy : PCV)および網膜内血管腫状増殖(retinal angiomatous

Age-related macular degeneration.
Nahoko Ogata (教授)